

「やってみる」という学びで地域活性。 知識を生きるチカラに変える

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

市川市民の手作り行灯で 大学近隣の地域を活性化

千葉商科大学に隣接する真間山弘法寺(まますんぐほうじ)は、1000年以上の歴史を持つ地域のシンボル。昨年7月22日、この真間山弘法寺の石段や境内に色とりどりの行灯が並べられ、夏の夜を彩った。

千葉県市川市真間で行われている「真間あんどん祭り」は、近隣5校の小学生などが作った行灯で、弘法寺の石段から真間の商店街までをライトアップするイベント。地域活性化や高齢者福祉など、地域の社会的課題の解決を目指すとともに、多世代の交流の機会を提供し、地域への愛着を深める一大プロジェクトだ。企画・運営を担うのは、千葉商科大

試行錯誤を繰り返す中で 成長していく学生たち

人間社会学部の学生チーム。弘法寺、真間地区の商店街有志、市川市役所、地域の小学校や病院、そして総勢約160名の学生スタッフが協働して創り上げる。

2015年に始まり、昨年で4年目を迎えたこのイベント。行灯の数参加ボランティア数、来場者数などが毎年右肩上がりに増加し、地域の夏の風物詩になりつつある。産学官民が連携した活動として、近隣住民からの評価も高い。

昨年は新たな取り組みとして、政策情報学部が加わり、白田那智さん(ひたちなか市を拠点にアートプロジェクトを行う美術家)をゲストとして迎え、行灯作りのワークショップを実施。また、お祭りの1週間前から商店街に行灯を設置するなど、十分な告知期間を設けた。

人間社会学部2年の櫻井佑真さん は、学生スタッフの管理を担当。多くの人が関わり、地域からの期待も大きいこのプロジェクトを運営する中で、様々な課題にも直面した。

「大切にしたいことは、スタッフのモチベーションを高く保つことです。できる限りメンバーの希望を聞き入れ、主体的に動けるよう役割分担しました。各自が責任感を持ち、活発に意見交換をした結果、イベントは例年以上に盛り上がり、運営も円滑に進めることができました。一人ひとりのやる気や責任感の大切さを再確認しました」

この成功体験が、新たな課題に取り組む自信となり、学生を成長させる。

(右) 行灯作りのワークショップは、対象を真間地区の子どもたちから市川市民全体に拡大。当日には「きれい!」「これ描いたやつ!」と喜びの声が上がった。
(右下) 夜になると約200個の手作り行灯が、弘法寺参道から真間の商店街までを照らす。ライブパフォーマンスやビンゴ大会、浴衣の無料レンタル着付けサービスなども行われた。
(左下) 政策情報学部の戸倉さんがデザインを担当したイベントの広報物。



千葉商科大学は「やってみる、という学び方」をテーマに、社会人力を高めるさまざまなプロジェクトを行っている。地域や企業を巻き込んだ活動の中で、学生たちは社会を知り、大きな成長を遂げる。

取材・文/ 諏訪文代

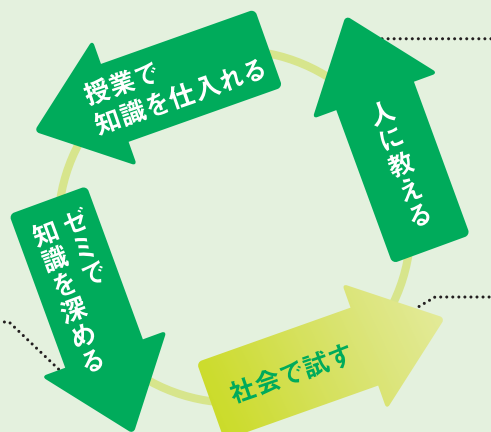


知識を、チカラに変えるCUCの「やってみる」という学び

CUCでは「やってみる」という学びを重視しています。教わった理論をどう使えば良いのか、どんな知識が足りないのか。社会に出て実際に試してみることで、多くの発見に出会えます。知る、試す、気づく。その繰り返しの中で、知識をチカラに変えていくのが、CUCのアクティブ・ラーニングです。

ゼミ

座学で学んだ知識を、さらに専門的に深める少人数クラス。仲間と議論したり、フィールドワークに出かけたり。合宿で絆を深めるゼミもあり、学生生活の中心です。



TA/SA制度

CUCの授業で特徴的なのが、上級生が得意科目を下級生に教えるTA/SA制度。教わる側は年の近い先輩に気軽に質問でき、教える側にとっても過去に学んだことを復習できるメリットがあります。 ※TA (Teaching Assistant) SA (Student Assistant)

プロジェクト型学習

企業や地域、教員、もしくは学生自身が設定した課題や目標に対して、学生がチームを作り協力して取り組みます。仮説を立てて学生が自立的、主体的に動かしゴールを目指します。



政策情報学部が企画・制作を手がけたプロジェクションマッピング。「夏」をイメージした映像と音楽が、祖師堂を幻想的に彩った。

学部を超えた連携が、さらに大きな力が生み出す

「地域政策コース」と「メディア情報コース」を持つ政策情報学部も、昨年は人間社会学部とともに、初めて「真間あんどん祭り」に参加。新たなプログラムとして弘法寺祖師堂をスクリーンとしたプロジェクションマッピングを実施し、告知ポスターなどの広報物の制作も担った。

政策情報学部3年の戸倉さんは、イベントの広報物のデザインを担当。「せっかく自分のデザインを試す機会をいただいたからには、目新しい作品にしたいと考えました。例えば、お祭りの事前開催される行灯づくり教室の告知案内では、子どもが手に取ることを考え、読みやすい書体を選ぶなどの工夫をしました」

学びの内容や得意分野の違い、2つの学部が連携することで、1つの

Information

千葉商科大学



巢鴨高等商業学校(1928年)を前身として1950年開学。現在は商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部を擁し、独自のプロジェクトによる実学教育で内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUCアライアンス企業」789社(2019年1月現在)との提携や資格取得サポートなど、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

●DATA

千葉県市川市国府台1-3-1
TEL 047-373-9701 (入学センター)
URL <http://www.cuc.ac.jp/>

社会からも注目を集める 千葉商科大学の学び

学部では実現できない幅広い取り組みを行い、より強く地域を活性化させる。

「やってみる」という学び方が大学全体に浸透しており、その上で各学部が特色ある取り組みを行っている千葉商科大学ならではの光景である。

「真間あんどん祭り」の取り組みは社会からも高く評価され、人間社会学部は一般社団法人社会人基礎力協議会と経済産業省が共催する「平成30年度人生100年時代

の社会人基礎力育成グランプリ」で入賞。また、真間行灯ライトアップ企画実行委員会が、「第12回市川市景観賞」を受賞した。政策情報学部も、「第24回いちかわイイネ! 映像・CMコンクール」の映像部門でグランプリを受賞した。

授業で学んだ理論を現場で実践することで、学生たちは新たな課題を見つけ、たくさんの気づきを得る。今後も、地域が抱えるさまざまな社会的課題に学生として何ができるのか、研究が続く。自分たちの手でプロジェクトをやり遂げた経験が、主体的に未来を切り開いていく「生きるチカラ」につながるのだ。